

東洋大学  
こもれびの森  
植物図鑑



TOYO UNIVERSITY



東 洋 大 学

こ も れ び の 森

植 物 図 鑑

# まえがき

東洋大学川越キャンパスには「こもれびの森」をはじめとする敷地面積の4分の1以上を占める森があり、そこには多様な植物や生物が生息している。そして、「東洋大学川越キャンパスこもれびの森・里山支援隊」（以下、「こもれびの森・里山支援隊」）では、生育阻害木や枯損木の伐倒、下刈り、ごみ拾いなどの里山林保全活動を定期的に行い、自然あふれる里山の森として維持できるように様々な活動が行われている。

しかしながら、本学の学生を含め、森への関心はあまり高くないのが現状であり、大学内でこのような活動が行われていることも知らない学生も多い。そこで、より多くの人に自然に興味を持ってもらうために、私の特技であるイラストを生かした「こもれびの森」に生育する植物図鑑を制作することにした。本制作を通して自然豊かな大学のイメージアップとともに、森の保全や自然保護について興味、関心を持ってもらうことを目的とする。実際、私自身も植物に関しての知識はほぼないため、初心者視点から、初心者でも楽しめるような図鑑制作のアプローチをしていきたい。

2020年3月

勝又 美友



# 目次

春-----	4
--------	---

シュンラン、ヤマザクラ、キランソウ、タチツボスミレ、  
キュウリグサ、タチシオデ、ウワミズザクラ、  
ホウチャクソウ、ササバギンラン

夏-----	22
--------	----

コアジサイ、エゴノキ、フタリシズカ、スイカズラ、  
シモツケ、オトギリソウ、ヤマユリ、ヌスビトハギ、  
ヤブミョウガ

秋-----	40
--------	----

ヤクシソウ、ユウガギク

索引-----	44
---------	----

あとがき-----	46
-----------	----

参考文献-----	47
-----------	----

# シュンラン

ラン科

シュンラン属

漢字名：春蘭

学名：*Cymbidium goeringii*

別名：ホクロ、ジジババ

草丈：10～25cm

花期：3～4月

花言葉：気品、清純、飾らない心

名前の由来は春に咲く蘭であるから。根ぎわから花茎<sup>かけい</sup>を出し、先端は淡い黄緑色になる。垂れ下がる唇弁<sup>しんべん</sup>には紫色の斑点があり、別名の「ホクロ」は、この斑点がほくろに似ることから付いた。おしべとめしべが合体して蕊柱<sup>ずいちゅう</sup>になっている。花粉を粉状ではなく、花粉塊として作り、虫に一度にまとめて運んでもらい、受粉する。



# ヤマザクラ

バラ科  
サクラ属

漢字名：山桜

学名：*Cerasus jamasakura*

別名：カバザクラ、ホンザクラ

樹高：10～25m

花期：3～4月

花言葉：あなたに微笑む、純潔

赤茶色の葉の芽吹きと同時に開花し、白色から薄紅色の花をつけるが、なかには淡紅紫色や先端の色が濃いものなども存在する。多くの花が集まって咲いている姿は圧巻であり、「こもればの森」でも、いたるところで鑑賞することができる。古くから和歌の題材としてもよく用いられた。名前の由来は、「山に咲く桜」であるため。





# キラソウ

シソ科

キラソウ属

漢字名：金瘡小草

学名：*Ajuga decumbens*

別名：ジゴクノカマノフタ

草丈：3～20cm

花期：3～5月

花言葉：あなたを待っています

しんけい  
唇形をした紫色の花を咲かせ、葉にはまばら  
に毛がある。根生葉こんしゅつようがロゼット状をしており、  
地面を覆って蓋をするかのように生えることか  
ら、ジゴクノカマノフタ（地獄の釜の蓋）とい  
う別名がついた。その他にも、古くから薬草  
として利用され、その効能ゆえに医者が必要  
ないことから、イシャゴロシ（医者殺し）の異  
名もついた。



# タチツボスミレ

スミレ科

スミレ属

漢字名：立坪堇

学名：*Viola grypoceras*

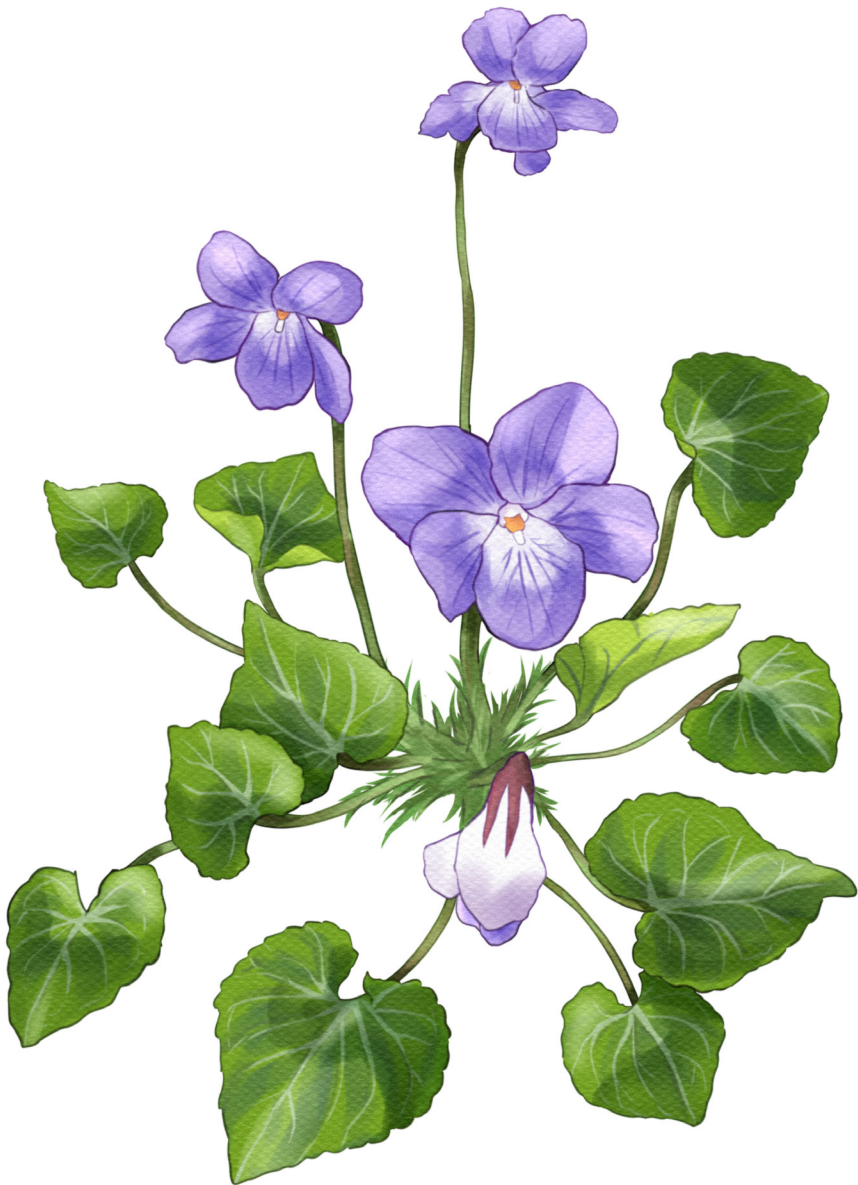
別名：堇草（すみれぐさ）、相撲取草

草丈：5～30cm

花期：3～5月

花言葉：つつましい幸福、小さな幸せ

花の色は薄紫色であり、丸みを帯びたハート形の葉が特徴。花のころの茎は高さ10cmほどだが、花の後高さ30cmほどに伸びる。夏にできるつぼみは閉鎖花<sup>へいさか</sup>で、花を咲かせずつぼみの中で受粉し、蒴果<sup>さくか</sup>を結ぶ。和名は花後に茎がタチ（立ち）上がることと庭を意味する「ツボ（坪）」から命名された。スミレは墨入れに似てることから転化した。



# キュウリグサ

ムラサキ科

キュウリグサ属

漢字名：胡瓜草

学名：*Trigonotis peduncularis*

別名：タビラコ

草丈：15～30cm

花期：3～5月

花言葉：愛しい人へ、真実の愛

かけい  
花茎がわずか2～3ミリしかない非常に小さい花であり、一円玉と比べてみると、その大きさが一目瞭然である。名前の由来は、葉をもむとキュウリの匂いがすることからきている。ムラサキ科の特性である「さそり形花序」かじよが見られる（花序の先がサソリの尾のように先が曲がる）が、開花するにつれてまっすぐになる。





# タチシオデ

サルトリイバラ科

シオデ属

漢字名：立牛尾菜

学名：*Smilax nipponica*

別名：ヤマアスパラ

草丈：1～2m

花期：4～6月

花言葉：(なし)

シオデと似ているが、タチシオデは、茎が初期に立ち上がる。成長すると、つる状の卷ひげが他の植物などに絡みつく。花期には、葉腋ようえきから球状かじよの花序をだし、緑色の花を付ける。雄花おぼなと雌花めばなが別々の株である「雌雄異株しゅういしゅう」である(本制作の絵は雄花)。若芽がアスパラガスのような姿と味に似ており、山菜として食べられる。



# ウワミズザクラ

バラ科

サクラ属

漢字名：上溝桜

学名：*Padus grayana*

別名：ハハカ

樹高：10～15m

花期：4～5月

花言葉：純潔、持続する愛情

サクラという名前ではあるが、花の形がずいぶん違い、白いブラシのような穂状の花を咲かせる。春には多くの節から一年枝が芽吹くが、秋にはほとんど落ちてしまう。古代日本でこの木に溝を彫って亀甲を焼き、吉凶の占いに使われたことから上溝桜という名前が付けられた。





# ホウチャクソウ

イヌサフラン科

チゴユリ属

漢字名：宝鐸草

学名：*Disporum sessile*

別名：狐の提灯

草丈：30～60cm

花期：4～5月

花言葉：追憶、よきライバル、嫉妬

初夏に白から緑へのグラデーションが美しい花をつける。花の先端は開かない。「こもれびの森」の道沿いで、群生している様子を見ることができる。名前の由来は、下向きに吊り下げて咲く姿が、寺院の屋根の四隅に吊下がる飾りの宝鐸ほうちやくに似ていることから。若芽に有害成分を含み、独特の臭気を発する。



# ササバギンラン

ラン科  
キンラン属

漢字名：笹葉銀蘭

学名：*Cephalanthera longibracteata*

別名：(なし)

草丈：30～50cm

花期：5～6月

花言葉：そっと見守ってください

ギンランによく似た花を咲かせ、葉が笹の葉に似ているのが名前の由来である。白色の花を穂状花序すいじょうかじょに数個つけ、満開時にも半開きの状態なのが特徴である。育てるのがひじょうにたいへんであり、全国的にも個体数が少ない。絶滅危惧種であるため、「こもれびの森」では特に保護に努めている。



# コアジサイ

アジサイ科

アジサイ属

漢字名：小紫陽花

学名：*Hydrangea hirta*

別名：シバアジサイ

樹高：1～1.5m

花期：5～7月

花言葉：忍耐強い愛

名前の由来は小さいアジサイという意味から。初夏の「こもれびの森」を代表する花であり、集まってきれいに咲く様子を観察することができる。花弁は白色～淡青色。枝の先にふくさんぼうかじよ複散房状花序をつけ、すべてが両性花になるので、アジサイ属に特徴的な装飾花がない。しかし、アジサイにはない甘い香りを放つ。





# エゴノキ

エゴノキ科

エゴノキ属

漢字名：野茉莉

学名：*Styrax japonica*

別名：チシャノキ、ロクロギ

樹高：5～15m

花期：5～7月

花言葉：壮大

満開時には全樹が白くなるほどいっせいに花をつける。花が散っても、地面に雪が積もったように白くなってきれいである。秋にできる薄緑色の実にはエゴサポニンという有害物質が含まれ、噛むと味が「えぐい」ことから「エゴノキ」と呼ばれるようになった。また、「エゴノネコアジアブラムシ」に寄生されると、冬芽が変形して虫こぶができる。



# フタリシズカ

センリョウ科

チャラン属

漢字名：二人静

学名：*Chloranthus serratus*

別名：サオトメバナ、ツキヌグサ

草丈：30～60cm

花期：5～6月

花言葉：いつまでも一緒に

かすい  
花穂が1本の「ヒトリシズカ」と対をなし、花穂が2本のため、命名された。実際には3～5本出すこともある。白色の米粒のような小さな花を咲かせるが、花に見えるのは実際には3個のおしべで、花卉もがくもない「無花被花」である。和名は静御前とその亡霊が、同じ姿で踊る能楽の「二人静」に由来された。



# スイカズラ

スイカズラ科

スイカズラ属

漢字名：吸葛

学名：*Lonicera japonica*

別名：ニンドウ、キンギンカ

樹高：3～5m

花期：5～7月

花言葉：愛の絆、献身的な愛、友愛

名前の由来は、花のつけ根の部分には蜜がたまっており、花の蜜を吸うことから。花は、枝先の葉腋ようえきに甘い芳香のある唇形しんけいの花を2つずつつける。はじめは白色だが、次第に黄色に変化する。このことから金銀花（キンギンカ）の別名がついた。また、冬でも葉が生い茂り寒さに耐えているように見えるところから、ニンドウ（忍冬）という別名もある。







# シモツケ

バラ科

シモツケ属

漢字名：下野

学名：*Spiraea japonica*

別名：キシモツケ

樹高：20cm ～ 1m

花期：6～7月

花言葉：無駄、無益、整然とした愛

枝先に複数の散房<sup>さんぼうかじよ</sup>花序を出し、小さな花を半球形状に密生させる。花の色は、濃紅色、紅色、薄紅色などがある。漢字名の「下野」は最初に下野国（現在の栃木県）で発見されたことに由来する。多くの都道府県でレッドリスト（絶滅のおそれのある種のリスト）に指定されており、「こもれびの森」でも保護をしている。



# オトギリソウ

オトギリソウ科

オトギリソウ属

漢字名：弟切草

学名：*Hypericum erectum*

別名：タカノキズグスリ、チドメグサ

草丈：30～60cm

花期：7～9月

花言葉：迷信、敵意、秘密

茎先に<sup>しゅうさんかじよ</sup>集散花序を出し、黄色い5弁花をつける。葉の表面に黒色の小点が見られる。和名の由来は、この草を、鷹の怪我の秘薬としていた鷹匠が、秘密を漏らした弟を切ったという伝説から来ており、黒点はこの時の飛び散った血痕とされる。煎じたものを<sup>しょうれんぎょう</sup>小連翹といい、切り傷の止血薬や鎮痛薬として用いる。



# ヤマユリ

ユリ科

ユリ属

漢字名：山百合

学名：*Lilium auratum*

別名：ヨシノユリ、ハコネユリ

草丈：1～1.5m

花期：7～8月

花言葉：荘厳、威厳、純潔

花茎が20～30cmあり、ユリ科の中でも最大級である。その大きさと見た目の豪華さから、「こもれびの森」でも存在感を放つくらい、見ごたえのある花になっている。花の色は白く、赤褐色の斑点がある。花弁の中央脈にそって黄色の線がある。茎は弓なりに曲がって伸び、花は横向きに咲く。花弁は外に弧を描きながら広がる。また、花には強い芳香がある。



# ヌスビトハギ

マメ科

ヌスビトハギ属

漢字名：盗人萩

学名：*Desmodium podocarpum subsp. oxyphyllum*

別名：(なし)

草丈：60～120cm

花期：7月～9月

花言葉：略奪愛

葉腋ようえきから総状花序そうじょうかじよを作り、花序かじよにまばらに花をつけるのが特徴。ハギ特有の蝶形ちょうけいになり、色はピンク色になる。大きさが3～4mmと小さいが、たくさん咲くのでよく目立つ。節果せつか(果実)の表面に密生したカギ状の毛で動物などに付着して運ばれるくつつき虫の一種である。名前の由来は、節果が盗人の足跡に似ているため。





# ヤブミョウガ

ツユクサ科

ヤブミョウガ属

漢字名：薺茗荷

学名：*Pollia japonica*

別名：ミョウガソウ、ハナミョウガ

草丈：50～100cm

花期：7～9月

花言葉：報われない努力

名前の由来は、薺に生え、光沢のある大きな葉がミョウガに似ているところからきている。夏に花茎が伸び、小さな白い花が、茎の上部に段々に集まって咲く。花には両性花と雄花<sup>おばな</sup>があるが、1日しか持たない一日花である。秋になると、黒に近い群青色の実をつける。まとまってつけるため、とてもよく目立つ。



# ヤクシソウ

キク科

オニタビラコ属

漢字名：薬師草

学名：*Youngia denticulata*

別名：チチグサ、ニガミグサ

草丈：30～120cm

花期：9～11月

花言葉：にぎやか、不信感

葉の形が薬師如来の<sup>こうはい</sup>光背に似ているため、あるいはかつては民間薬として使われたための名などの説があるが定かでない。葉の<sup>きぶ</sup>基部は後方に大きく張り出して茎を抱くのが特徴。裏面は<sup>ふんはくしよく</sup>粉白色。茎を切ると乳液が出る。「こもれびの森」で保護に努めており、若い苗なども合わせて多く見られるようになってきた。



# ユウガギク

キク科  
シオン属

漢字名：柚香菊

学名：*Aster iinumae*

別名：(なし)

草丈：60 ～ 120 cm

花期：8月～11月

花言葉：陽気に騒ぐ

葉をもむとユズの香りがすることが、名前の由来になっている。カントウヨメナ、ヨメナ、ノコンギクなどといった近似種が多く、これらとは葉の形や、花の色で区別することが多い。ユウガギクは他種より花の色が白く、冠毛（果実の上端から出ている絹のかんもうような毛）が短いのが特徴である。





# 索引

## ア

ウワミズザクラ-----	16
エゴノキ-----	24
オトギリソウ-----	32

## カ

キュウリグサ-----	12
キランソウ-----	8
コアジサイ-----	22

## サ

ササバギンラン-----	20
シモツケ-----	30
シュンラン-----	4
スイカズラ-----	28

# 索引

## タ

タチシオデ -----	14
タチツボスミレ-----	10

## ナ

ヌスビトハギ -----	36
--------------	----

## ハ

フタリシズカ -----	26
ハウチャクソウ-----	18

## ヤ

ヤクシソウ -----	40
ヤブミョウガ -----	38
ヤマザクラ -----	6
ヤマユリ -----	34
ユウガギク -----	42

# あとがき

本制作では、東洋大学「こもれびの森」に生息する植物を、絵を用いて紹介するイラスト図鑑を制作した。誰もが楽しめるような図鑑として、また一枚絵として感動させてもらえるように、私なりのこだわりを持って満足するものを制作することができた。今回の制作を通して私の中で大きく変わったことは、森や環境への関心を持つようになったことである。活動を通して人と触れ合うことと、過程を楽しむことも森への関心を高めた理由の一つになった。

本制作の最終的な目的は、森の保全や自然保護について興味、関心を持ってもらうことである。人々の関心を動かすためには、楽しいや面白いといった感情をどれだけ作り出せるかが重要だと私は考える。私の願いは、当大学生のみならず多くの人に環境について考え、行動してもらいたいことである。その一環として、森や、森の保全活動を体験して興味を持ってもらいたいのである。本制作を見て少しでも多くの人が植物や森に興味を持ち、森の保護のために動いてくれるようになってほしいと願っている。

本制作は、2019年度東洋大学総合情報学部の卒業研究・制作の一環で作成したものである。

# 参考文献

- [1] 東洋大学, “こもれびの森・里山支援隊” (2020年1月5日閲覧)  
(<https://www.toyo.ac.jp/ja-JP/social-partnership/satoyama/>)
- [2] 宮内泰之, “里山さんぽ植物図鑑”, 成美堂出版 (2017)
- [3] おくやまひさし, “大人の里山さんぽ図鑑”, 交通新聞社 (2017)
- [4] 花福こざる, “おもしろ植物図鑑: マンガと写真でゆる〜く楽しむ、草花の魅力”, 誠文堂新光社 (2016)
- [5] 菱山忠三郎, “身近な野草・雑草一持ち歩き図鑑”, 主婦の友社 (2007)
- [6] 岩谷美苗, “樹の手帳 散歩が楽しくなる”, 成美堂出版 (2017)
- [7] 武田義明、近藤浩文、土井内和夫, “植物イラスト図鑑”, 保育社 (2004)
- [8] 内城葉子, “内城葉子植物画集 里山の図鑑”, 日本植物友の会 (2013)
- [9] 埼玉県絶滅危惧植物種調査団, “フィールドで使える 図説植物検索ハンドブック埼玉 2882 種類”, さきたま出版会 (2016)
- [10] NTT レジナント株式会社, “みんなの花図鑑” (2020年1月5日閲覧)  
(<https://minhana.net>)
- [11] “ひあまりのHP” (2020年1月5日閲覧)  
(<http://anon.lolipop.jp/>)
- [12] よしゆき, “Flora of Matsue (松江の花図鑑)” (2020年1月5日閲覧)  
(<https://matsue-hana.com/>)
- [13] ビオ・荒川さいたま, “ビオ・荒川さいたま さいたま市の荒川堤と水田の花” (2020年1月5日閲覧)  
(<http://arakawasaitama.com/>)
- [14] 株式会社科学技術研究所, “かぎけん花図鑑” (2020年1月5日閲覧)  
(<https://www.flower-db.com/>)
- [15] 樹げむ舎, “木のぬくもり・森のぬくもり” (2020年1月5日閲覧)  
(<http://www.jugemusha.com/>)
- [16] 松村忍, “庭木図鑑 植木ベディア” (2020年1月5日閲覧)  
(<https://www.uekipedia.jp/>)

東洋大学「こもれびの森」植物図鑑

2020年3月25日 発行

制作：勝又 美友

指導教員・主査：小瀬 博之

副査：多田 光利

編集：東洋大学総合情報学部環境コミュニケーションゼミ

発行：東洋大学川越キャンパスこもれびの森・里山支援隊

<https://www.toyo.ac.jp/ja-JP/social-partnership/satoyama/>



